第二十三軍司令部略歴

代理　陸軍少将　富田直亮

年月日	概要
昭三、九、七	才二十一軍編成準備
九、一六	才二十一軍司令部編成完結
一四、九、八	南支那方面軍司令部編成改正下令
九、一五	編成完結
一六、七、六	才二十三軍司令部編成下令
七、八	編成完結
二〇、一、七	才二十三軍司令部編成改正
一、一〇	編成完結
二一、四、一七	内地返還の為広東省虎門出発
四、二四	浦賀入港（洋上隔離）
五、三	浦賀上陸（地上隔離）
五、二二	復員式挙行解散
	戦犯抑留者世話係として軍参謀陸軍中佐井上正規以下十一名現地抑留所内に残留す。（内訳、将校六名、下士官一名、兵一名、通訳三名）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	摘要
	戦犯容疑者として抑留せられたる者 軍司令官陸軍中将田中久一以下五三三名 将校氏名左の如し 一、四師団長木藤知文　一三、師団長中将近藤新八 独混三二旅団長少将河辺虎三　憲兵隊長少将重藤憲文 歩兵才一二九師団　歩兵九二旅団長　少将平野儀一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十三軍司令部略歴

参謀　陸軍中佐　薄井平八郎

年月日	概要
昭二一、三、二一	復員本部要員として南支廣東省東莞縣虎門塞出帆
二一、四、一	浦賀上陸
二一、四、五	福岡県筑紫郡二日市復員本部（支那派遣軍）到着　同日転役召解帰郷す。

同書類は未整理のまま帰郷せるを以て整理提出せり

復員本部総務課

陸軍准尉　川口末夫

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十三軍司令部略歷

陸軍中將　田中久一

年月日	概要
昭二一、二、二〇	恩赦業務要員として陸軍法務准尉小藤清と共に第二十三軍先遣隊となり陸軍中佐薄井平次郎輸送指揮官の下に廣東を出発
二、二一	虎門着
三、二〇	リバテークレントンケレー号に依り虎門出発
四、一	浦賀に上陸す。 尚部隊主力は五月上旬浦賀に上陸しある模様なり。
四、八	復員本部に到着、直ちに恩赦業務を開始し
五、一〇	終了せり。

昭和二十一年五月十二日

陸軍法務大尉　伊東卷郎

1045

ノの外　南支

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十三軍司令部略歴

経理部長　陸軍主計少将　藤原藤次郎

年月日	概要
昭二〇、三、二一	江本主計中佐以下八名　南支軍経理部先遣要員として内地帰還の目的を以て部隊主力と分離、廣東出発虎門家に至り乗船出帆す。
四、一	浦賀入港上陸　全員異常なく浦賀収容所に入所検査防疫完了
四、四	浦賀出発二日市に至り南支軍残員業務の連絡、援助、事務処理に任じ、
四、二〇	当該地に於ける任務概ね終了
	江本中佐外一名浦賀に至り、上陸地に於ける連絡業務を援助する目的を以て四月二十日出発せるも他の六名は無用となり逐次名集解除除隊となり、四月二十七日帰郷す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第百八聯隊略歴

陸軍大佐　青野三郎

年月日	概要
昭一三、六、一六	第百四師団第六動員の一下令
六、二三	聯隊長宮田兼治郎大佐宮中に参内、軍旗拝受同時優渥なる勅語を賜う。
六、二五	軍旗奉迎式挙行
六、二六	編成完結
七、三	大阪港出帆
七、一〇	満州国錦州省錦縣着、訓練に従事
八、一六	張鼓峯事件参加の為間島省延吉移動
九、	第二十一軍の戦闘序列に入る。
一〇、三	延吉出発
一〇、五	大連集結待機
一〇、九	大連出帆
一〇、一二	白耶亜土湾沖投錨
一〇、二一	煙台背上陸、廣東攻略戦参加
一二、三	廣東省番禺縣東岡着、引続き流溪水右岸地区及同地周辺の掃蕩
昭一四、一、七	西湾水道掃蕩戦

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一四、一一、一四	花縣平地の掃蕩戦
一二、一三	警備地変更の為三水縣三水に移動
一三、一一	青龍塘附近の戦斗
二一、一九	江門新開鶴水附近の戦斗
二二、一四	新圩南方及宮窪地区の戦斗
四、一九	警備地変更、廣州北部旧軍医院跡に移動
六、一七	才二大隊歩一三七尺の指揮に入り汕頭攻略戦参加
六、一九	中部花縣平地の戦斗
六、二三	華号作戦に於ける花縣平地の戦斗
六、三〇	警備地変更　番禺縣蚝湖に移動　同地に在りて翁英作戦待機訓練
七、一三	花縣及蕉頭墟附近の戦斗
七、一七	翁英作戦参加　本作戦に於て感状を授与せらる。
八、五	旧軍医院跡に入る。
九、三	廣州市内警備
昭一五、一一、一八	良口会戦参加
三、一	帽峯山附近の戦斗
五、二六	西村市立中学校跡に移動
六、四	蘆苞附近の掃蕩
二、二五	
昭一六、一、三一	
二、一二	
一三	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一六、一〇、一五	四邑附近の作戦参加
一〇、七	警備地変更三水縣三水に移動、北江警備隊となる。
三、一六	蕾三水北方地区の戦斗
昭一七、一一、一四	蘆苞水附近の掃蕩
四、二九	第二次従南地区の戦斗
五、二九	揚梅圩附近の戦斗
六、一五	従源作戦に於ける北江作戦
九、二	
一〇、六	南海縣佛山に移動　西部警備隊となる。
昭一八、二、六	灶岡附近の戦斗
二、二八	廣州湾進駐作戦
六、一九	石角周辺地区の戦斗
七、一	軍令陸甲第三十六号　編成改正
九、一六	紅岡附近戦斗
昭一九、一、一四	金利圩附近の戦斗
昭二〇、二、二八	湖桂作戦及惠豊作戦参加
三、一	陸海豊地区に於ける「セ」号戦備
八、九	陣地強化の為　惠豊縣横瀝墟に移動
八、一四	停戦詔書発布

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、八、一八	復員下令
八、三	軍旗奉焼
九、二	停戦協定締結
一〇、一六	墨園収容所入所
昭二一、二、一一	内地帰還の為墨園出発
二、一七	東筦縣白沙（太平）収容所入所待船
四、一	荒門出帆
四、八	浦賀入港
五、八	上陸　横須賀援護所収容　二八五〇名
五、一四	復員式挙行
六、五	復員完結

復員完結時に於ける兵力区分

入院一〇〇名、死亡一二七四名、生死不明三名（内九名死亡認定）

処刑なし、　残留なし

残務整理者官氏名

陸軍大佐　青野　三郎　　陸軍准尉　谷口　政雄

同　大尉　小野木雅次郎　　同　軍曹　宮地　十一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百四師団歩兵第百六十一聯隊略歷

一代　堀忠男
二代　石田顯義
三代　根津直剛
四代　清水圓

年月日	概要
昭一三、六、一六	動員下令
六、二三	軍旗拜受
六、二六	動員完結
七、一五	大阪港出帆
七、二一	満州国奉天に到着　訓練に従事
	大連港出帆
	白耶土湾に上陸　廣東攻略戦に参加
一四、二、一九	廣東北側に駐屯同時周辺地区の掃蕩並に警備に従事
一五、一、二〇	翁英作戦に参加
一五、一一、一七	良口会戦参加
一六、五、一九	従源作戦に於ける粤漢線作戦に参加
一七、三、二〇	廣州湾進駐作戦に参加
一八、二、一八	湘桂作戦に参加

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	
昭二〇、六、二四	両豊地区「セ」号戦備	
六、二三	自耶上地区「セ」号戦備	
八、一四		
二一、三、二八	廣東省虎門出帆	
四、六	浦賀港上陸	
四、六	復員完結	
	内地召集解除者	三、三七二名
	外地召集解除者	一〇六名
	死亡者	八三六名
	入院患者	三二九名
	生死不明者	四九名
	所在不明者	一名
	残留者（其の他）	一名
	処刑者	三名
	合計	四六九七名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百四師団歩兵第百三十七聯隊略歴

陸軍大佐　藤本末夫

年月日	要
昭一三、六、二三	大阪「ひとのみち」教会に於て歩兵才三十七聯隊編成担任部隊となり編成完結す。当時の編成は聯隊本部　大隊本部　歩兵三ヶ大隊、聯隊砲中隊、歩兵砲中隊、通信班、各聯大隊に大小行李あり　大隊は本部、歩兵中隊四ヶ中隊機関銃中隊一ヶ中隊あり。兵力は小銃中隊は軽機関銃六挺、擲弾筒六個、其他小銃機関銃中隊は三年式重機関銃四挺、聯隊砲中隊は三一式山砲二門、歩兵砲中隊は平射歩兵砲二門、曲射歩兵砲二門、通信班　五号無線五機　有線一小隊なり。各聯隊隊には大小行李駄馬約七〇頭
一三、八、二、五	満州国間島省琿春に駐屯
九、三〇	廣東攻略戦に参加
一〇、二四	廣東省從化縣大平場に駐屯
一〇、二五	廣東周辺地区の戦斗並に掃蕩に参加
十四、四、二二	汕頭攻略戦に参加
六、二、九	潮州攻略戦に参加
六、二、二五	廣東省潮安縣潮州に駐屯
六、二、二八	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一四、七、二五	潮汕地区の戦斗並に掃蕩に参加
一五、三、二六	廣東省從化縣大平場に駐屯
一六、一、二〇	廣東周辺地区の戦斗並に掃蕩に参加
九、二、九	北上作戦に参加
一〇、二、七	廣東周辺地区の戦斗並に掃蕩に参加
一七、四、二六	從源作戦に於ける粤漢作戦に参加
九、五、二七	廣東省增城縣石滘頭に駐屯
二、一、六	廣州湾進駐作戦及合浦麗葱進出作戦に参加
一八、三、八	步一次巡回作戦に参加
四、二、一〇	廣九作戦に参加
五、二、一一	湘桂作戦に参加
一九、四、九	廣東省海豊縣竹劇圩に駐屯
二〇、二、八	停戦詔書発布　部隊は当時廣東省海豊縣に駐屯
二、二、九	復員下令
八、一四	停戦協定成立
八、一八	兵器弾薬軍需品　恵州に於て中国側に接収さる。
九、二	廣東省恵陽縣矮陂圩附近にて集中営生活
九、一九	乗船のため同地出発
二、二、一二	
一三	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一、二、一九	廣東省東莞縣虎門に集結待機
四、二	復員帰還のため米国船V088号に乗船出帆
四、九	浦賀に入港、同港碇泊中の他船舶にインフルエンザ発生のため検疫受検
四、一九	陰性のため同日浦賀に上陸援護所に収容され復員準備
四、二三	復員式後部隊解散復員完結す
	現在員 虎門乗船時　将校七四名　準士官下士官五二三名　兵一、五九六名 合計　二、一九三名 浦賀除隊名集解除時　将校七四名、準士官下士官五一六名、兵一、五七七名 合計　二、一六七名 下士官七減は入院、兵一九減は死亡一、入院一八
二一、五、一四	二日市復員本部に於て復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百師団歩兵第百三十七聯隊第二大隊略歴

陸軍少佐　阪上節介

年月日	概要
昭二一一一〇	才二十三軍直轄部隊となり廣東省廣州市集結のため廣東省四會縣商龍寨出発
二一六	同月同日より二月十五日迄惠豊作戦に参加
二四	廣東省惠陽縣惠州附近の警備並「セ」号戦備
二五	惠州出発
三九	廣東省惠陽縣双金着　同地附近の警備並「セ」号戦備
三一〇	双金出発
	廣東省惠陽縣下村仔着　同地附近の警備並「セ」号戦備
四五	下村仔発
	惠陽縣横坑窒着　同地附近の警備並「セ」号戦備
五七	横坑窒出発
	廣東省海豊縣后山着　同地附近の警備並「セ」号戦備
六二〇	移駐のため后山出発
六二六	廣東省廣州市河南基立村着　同地附近の警備並「セ」号戦備
七八	河南南基立村出発
	廣東省番禺縣市橋着　同地附近の警備並「セ」号戦備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二、八、一四	停戦詔書発布
八、一八	復員下令
九、二	停戦協定締結
一〇、四	部隊集結のため市橋出発
	廣東省順德縣荔村着　同地集結
二一、三、一八	内地帰還のため荔村出発
三、二、一	虎門港出発
四、一	浦賀港上陸
四、三	上陸地に於ける復員業務完了　復員式挙行残務整理者（福本中尉）の外帰郷す。
四、三	一四、三六横須賀駅発鹿児島行復員列車に乗車
四、四	二四、〇〇頃二日市町支那派遣軍九州連絡所着
	復員完結
	現在員　虎門乗船時　将校三三名、準士官、下士官二一八名　兵七一五名　合計九六六名
	浦賀除隊召集解除時　将校一二三名　準士官、下士官二一八名　兵七一三名　合計九六四名
	兵一減は持山桂入院　小牧信夫死亡

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	除隊召集解除時に於ける人員区分左の如し 総員　一〇二九名 事故　六三名 現在員　九六六名（内に以西本玉次持山桂亟加す） 事故内訳 第百三十師団司令部勤務　5名召集解除す。 入院患者　三七名（入院患者亟名簿の如し、一減は持山を召集解除す） 内還者　二四名 行方不明者　二名（青島新作、内容富三） 戦時名簿の整理状況 第五中隊及準士官以上假本を其他は原本あり 事故者の分は一括別冊とし目録を附す 別に戦時名簿写を調整　各人に携行帰郷せしむ 輸送間の事故 四月一日上陸時歩兵砲中隊陸軍上等兵小牧信夫マラリア三日熱のため 国立横須賀病院走水分院に送院中死亡 （死亡亟名簿に記載済一件書類調整済）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百四師団野砲兵第百四聯隊略歷

年月日	概要
昭一三、六、六	大阪府信太山に完結
	バイアス湾上陸　広東攻略戦に参加
	広東攻略後ヿ広東し北方約十粁附近ヿ鶴辺」に在りて広東附近の警備に任ず
	其の間参加せる主要作戦左の如し
昭一四、二、	翁英作戦
一五、四、	良口作戦
一六、一、	蘆苞作戦
一六、八、	第一次從南作戦
一七、一、	蘆苞作戦
一七、四、	第二次從南作戦
一七、六、	從源作戦
一七、二、	銀南作戦
一八、二、	広州湾進駐作戦
一八、五、	派西作戦
一八、一二、	広九作戦

1059

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
一九、六、二四 二〇、二、二八	桂作戦 此の間左の如く編成改正あり 昭一八、七、一　從来の大隊編成を改正中隊数六とす。 装備A/38 一八、10/41 一二、
二〇、八、一	昭二〇、二、二八以降　陸海豊地区に在りて七号戦備の強化に従事 恵州に向い反転引続き恵州南方約八粁冷水坑附近に在りて七号戦備陣地構築に着手せんとして停戦の大詔を拝す。

指揮隷属関係及其変遷の概要

編成改制以前各大隊の主力を各歩兵三ケ聯隊に配属

改制後二ケ中隊宛各歩兵聯隊に配属其の他は師団直轄

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百四師団野砲兵第百四聯隊略歴

陸軍中佐　湯屋繁治
同中佐　八尾愛治
同大佐　小林漸
同少佐　横川止知

年月日	概要
昭一三、六、二八	大阪府信太山野砲兵第四聯隊に編成完結
	内地出発後、先ず大連港上陸満州「周水子」に集結
	「周水子」に於て諸準備実施の後再び大連港に於て乗船、南支に向い転進
	南支「バイアス湾」に上陸引続き広東攻略戦に参加
	広東攻略戦後、広東市北郊約一〇粁鶴辺にありて警備
	此の間「翁英」「良口」「從源」「広州湾進駐」等諸作戦及其の他の討伐に参加
一八、七、一	編成改正　編成を縮少し從来の大隊編成（大隊三　中隊九）を解き「中隊六」に改編す
	引続き鶴辺に在りて広東附近の警備
	此の間「広九」「湘桂」諸作戦に参加
	湘桂作戦終了後の海豊陸豊地区に於て「セ」号戦備の強化を実施
	尓後惠州に反転惠州南郊冷水坑に在りて「セ」号戦備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、一一、一	停戦令下令
二一、二、一二	惠州地区才三収容所に入所
二一、二、一八	東船の為同所出発
二一、四、一	広東省東莞縣北栅に到着
二一、四、九	帰国の為東船出発
二一、四、一九	浦賀入港
二一、五、六	上陸ヿ馬堀捕虜収容所に入所
	復員完結

復員完結時に於ける兵力区分　総員一二一二

除隊召集解除者　一〇七三（内地一〇二二、現地五〇）

入院　一二九

所在不明　七

生死不明　三

残務整理者

残務整理者氏名

陸軍少佐　横川止知

陸軍大尉　山本孝一　陸軍曹長　宮崎光夫

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

工兵第百四聯隊略歴

陸軍大佐　藤井一枝
陸軍大佐　荻野仕
陸軍少佐　森立身

年月日	概要
昭一三、六、一六	動員下令
一三、六、二五	動員完結
一三、七、五	滿州派遣の為大阪港出発
一三、七、一三	滿州錦縣に到着　同地の警備
一三、九、二六	第二十一軍の戰斗序列に入り
一三、一〇、一二	「バイアス」湾上陸　広東攻略戰に參加
一〇、二七	廣州市に到着、同地附近の警備に任ずると共に爾後左の如き作戰に參加す。
一四、八、六	汕頭攻略戰
一五、二、二	翁英作戰
一五、三、一	良口會戰
一六、一〇、九	四邑北江作戰に於ける北上作戰
一七、九、五	從源作戰に於ける粤漢線作戰
一七、二、二	廣州灣進駐作戰
一八、二、一八	白泥蘆苞推進作戰
二〇、一二、一九	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一八、一一、二八	廣九作戦
一九、四、二九	湘桂（才一期乃至才三期）作戦
二〇、一一、一四	陸海豊恵州地区「セ」号作戦準備
八、一四	停戦詔書発布
九、二	停戦協定締結
二一、四、二	復員内地帰還の為虎門港出帆
四、一九	浦賀港上陸
五、三	復員完結

兵力（復員完結時）

区分	名		将校	準士官兵	軍属	計	摘要
	現地除隊	内地除隊					
除	一	二三		二	三	六	将校一は朝鮮籍、軍属三は終戦前現地解雇
死亡				三三		三三	
転属			三	三四		三七	
生死不明					一	一	台湾籍、通訳離隊逃亡
入院				一六		一六	
合計			二七	四五九	四	四九〇	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百四師団通信隊略歴

初代　陸軍少佐　島田　悉
二代　陸軍大尉　杉山　昌
三代　陸軍大尉　小川　真幸
四代　陸軍大尉　山田　保武
五代　陸軍大尉　川下　壹平

年月日	概要
昭一三、六、一六	軍令第　号に依り第百四師団動員下令
六、二六	大阪府三島郡高槻町工兵第四联隊に於て第百師団通信隊動員完結
一八、七、一	軍令陸甲第三十六号に依り第百四師団通信隊編制改正
昭一三、七、三	満州派遣のため大阪港出帆大連上陸後盧溝橋附近に駐屯同地附近の警備に任ず
八、	張鼓峰事件発生するや櫛門附近に集結待機す。
九、	第二十三軍の戦斗序列に入り大連附近に集結　大連港出帆す。
一〇、一二	ラバイアスに湾上陸　引続き広州市入城翌来、廣州北郊西村附近に在りて広東北面に対する警備に任ず。
一九、五、一	以降中支軍に呼応する大陸縦断作戦に参加　広西省深く進攻す。
二〇、二	太平洋方面戦局の変転に伴い南支沿岸防禦態勢強化のため
八、五	以降廣東省海豊縣海豊附近に在りて防禦陣地の構築及教育訓練に邁進す。
	廣　省惠陽縣惠州附近に移駐防禦態勢強化中

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一三、一〇、一二	廣東攻略戰
一四、六、七	汕頭攻略戰
八、八	海南島攻略戰
一五、一、一三	翁英作戰
六、一五	良口会戰
一六、二、四七	蘆苞作戰
八、八	從南作戰
九、一、二五	四邑作戰
一七、四、二八	第二次從南地区作戰
九、二、二七	從源作戰
一八、二、二一	廣九作戰
九、五、二八	湘桂作戰
二〇、一〇、二五	廣東省惠陽縣横瀝附近に集結
二一、二、一一	同地出発
二、一八	廣東省東莞縣虎門到着乗船待機

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二、四、一	内地帰還のため虎門港出帆
四、八	浦賀港入港
五、八	浦賀上陸、同日横須賀援護所に入所す
五、二三	復員完結
	除隊、召集解除者　二七六名
	入院患者　七名
	死亡者（死亡者連名簿に依るもの）　二十名
	生死不明者　ナシ
	其の他　ナシ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百四師団輜重兵第百四聯隊略歴

一代　陸軍大佐　池田耕一

二代　陸軍中佐　門口元一

年月日	概要
昭一三、六、一六	動員下令
六、三〇	動員完結
	編成地、大阪府堺市
七、一〇	大阪港出帆
七、一二	大連港上陸
七、一五	満州国海城着訓練に従事
九、三〇	大連港出帆
一〇、一四	白耶土湾に上陸広東攻略戦に参加
一〇、三〇	広州市北郊に駐屯同地附近の警備勤務
一四、一一、一三	翁英作戦に参加
一五、一一、一六	良口会戦に参加
一七、五、三一	従源作戦に於ける粤漢線作戦に参加
一八、二、二八	広州湾進駐作戦に参加
一九、四、二九	湘桂作戦に参加
二〇、二、一四	両豊地区ヲセレ号戦備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	摘要
昭二〇、八、六	自耶土地区「七」号戦備
八、一四	停戦詔書発布
八、一八	復員下令
九、二	停戦協定締結
二一、三、二九	廣東省虎門出帆
四、六	浦賀巻上陸
	復員
	内地召集解除者　六七三名
	外地召集解除者　一四四名
	死亡者　一一五名
	入院患者　二七名
	生死不明者　五名
	所在不明者　無

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百四師団兵器勤務隊略歴

陸軍中佐　山岡誠意
陸軍大尉　福枡数一

年月日	概要	
昭一三、一二、六	軍令陸第才　号に依り編成	
	大阪に於て編成完結	
	大阪港出帆	
一八、七、一	南支廣東省黄上陸、廣東省南海縣西村に在りて警備勤務、此の間諸作戦に参加	
二〇、八、五	軍令陸甲才三六号により編成改正、湘桂作戦後、海豊に駐留、	
	恵州に移駐、	
八、一四	停戦詔書発布	
八、一八	復員下令	
九、二	停戦協定締結	
二一、四、二	虎門出帆	
四、一九	浦賀上陸	
昭一四、二、一五	翁英作戦　廣東―翁源―英德	兵器弾薬の補給並修理
三、五、一五	良口会戦　廣東―從化―良口	兵器弾薬の補給並修理
六、九、一八	四邑作戦　廣東―江門―軍水口―長沙	兵器弾薬の補給修理並物資蒐集
一六、一〇、一四		

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一七、五、二五 一九、六、二二 二〇、六、二八	從源作戰　廣東——從化——源潭墟　兵器彈藥の補給並修理物資蒐集及輸送 湘桂作戰　廣東——清遠——四會——梧州——丹竹——米賓——柳州——梧州 ——肇慶——四會——英德——海豐 兵器彈藥の補給修理並物資蒐集

兵力区分

区分	召集解除	入院	戦務整理	計	摘要
将校	四		一	五	
准士官	二			二	
下士官	三四			三四	
兵	六〇	一		六一	
計	一〇〇	一	一	一〇二	
備考					

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百四師団野戦病院略歴

陸軍軍医少佐　福田一郎

年月日	概要
昭一八、五、一	軍令陸甲第三六号に拠り　編成改正下令
七、一	編成改正完結、場所南支廣東省廣州市西村
昭一八、七、一	編成改正完結後廣州市西村に於て野戦病院開設
一九、五、一六	野戦病院閉鎖爾後作戦参加準備
二〇、六、二七	湘桂作戦参加、
二〇、二、二八	廣東――清遠（二ヶ月駐軍）、清遠発（昭一九、九、八）――四會――梧州（廣西省）――丹竹――武宣――柳州――三都街に前進　之より直ちに反転、柳州――潯州――平南――白馬圩――梧州――德慶――肇慶――四會　四會に於て韶関攻略戦参加の為待機後英德迄前進
二、一三	海豊縣海豊着直ちに同地附近の海岸警備
八、一〇	移駐の為惠陽縣惠陽附近の警備
昭一三、六、一〇	野戦病院の前身たる第二野戦病院は、大阪に於て動員され、当時師団には四ヶ病院が編成され
六、一七	動員完結最初満州に派遣され

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一三、一〇、一三	廣東攻略戦参加の為白耶土湾（バイアス湾）に敵前上陸、廣東攻略後は同地に駐軍
昭一八	軍令陸甲才三六号に依り編成改正時に全り師団故一の衛生機関（四個大一個病院となるゝとなりたり。
昭二一、二、一二	停戦以来部隊は惠陽縣至園地区に部隊は集結し野戦病院を開設師団内患者の収容後送に任しつつありしも乗船切迫と情報に病院を閉鎖し、
二、一九	当地出発行軍を続行
三、三〇	虎門附近に待機したるも輸送船未たらず当地に於て野戦病院を開設、再度病院を開設
三、三一	乗船命令受領
四、一	乗船し（VD80号）
四、八	虎門を出帆
五、八	浦賀に到着せるも常時コレラし多発のため上陸し得ず（コレラ多発は他船）一ヶ月隔離後
五、一四	漸く上陸し、同日横須賀市不入斗引揚援護所に再度防疫隔離を施行せられ解除せられ、全員復員式を完了せり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	病院総員終始軍紀風紀を厳守し　一名の事故者も無し 新日本建設の意気高く解散せる当時に於ける人員の状況左の如し 内地召集解除　八八〇名 死亡　九〇名 入院　三一名 転属者　四二名 生死不明者　三名 計　一〇四六名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百四師団病馬廠略歴

陸軍獣医大尉　新美長夫

年月日	概要
	編成完結時の状況は関係書類の焼却と最近部隊内人員が全部更新せられたる為昭和十八年より以前の状況は全く不明なり ただ昭和十八年七月一日軍令陸甲第三十六号に依り編成改正を行い終戦に至りたるものにして其の編成左の如し 将校　廠長　獣医少佐（大尉）廠附獣医尉官三名 準下士官　兵科准士官一名　同下士官一名　経理部　衛生部下士官各一名 獣医部下士官五名 兵　五十二名（内衛生兵二名　蹄鉄工兵十五名　自動車運転手二名）
昭一八七、	部隊の往昔の状況は不明確なるも師団の参加せる各作戦に於て或は主力を以て或は一部を分派して師団内傷病馬の収療をなし師団の廣東西北方地区に駐留態勢を取るや主力を以て廣州市西郊西村に一部を以て佛山に病馬廠本廠及支廠を開設しありたるも、 編成改正に於て著しく規模を縮少せられ佛山支廠を撤し爾後西村に於て業務を行いありたるも、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
明一九、五	湘桂作戦に参加
〃	清遠に於て以后桂林兵団主力と行を共にし、梧州、丹竹、柳州 更に反転して四會、英德 更に一部は韶關に病馬廠を開設、師団内各部隊の傷病馬の収療後送に任し
二〇、二、	更に師団の両翼地区への進出と共に海豊に到る。更に八月上旬惠州に反転し此処にて終戦に到る。
〃	終戦後当分の間原態勢を取りありたるも
〃、三一	惠州北方墨園地区に集結せしめられ、
二一、二	駐留す。
〃	虎門地区へ移動し
四、八	上船迄此地に駐留す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百二十九師団司令部略歴

陸軍中将　鵜沢尚信

年月日	概要
昭二〇、五、二〇	軍令陸甲第六十五号に拠り、同年一月日本内地に於て臨時編成せる波留独立混成旅団を基幹とし廣東省淡水鎮附近に於て編成完結す。
五、二〇	編成完結
八、二五	廣東省淡水に於て自衛上並に大鵬湾沿岸地区に於ける警備並に陣地構築に任ず
九、一三	廣九線樟木頭に集結
一〇、九六	中国軍に対し兵器装備の移譲
一〇、一七	帰国待機位置なる廣東省東莞県東莞に集結完了
二、四、三	帰国乗船地なる廣東省東莞県虎門塞に移動集結
四、一三	帰国の為乗船出帆
四、二一	浦賀港到着
五、三	浦賀に上陸
	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第九十一旅団司令部略歴

陸軍少将　谷　肇

年月日	概要
昭二〇・五・一四	軍令陸甲第六五号に依り「廣東省惠陽縣淡水」に於て歩兵第九十一旅団司令部編成下令
五・二〇	「廣東省惠陽縣稔山墟」に於て編成完結
七・五 三・二〇	廣東省惠陽縣白耶子灣稔山墟附近の治安警備に任じ築城警備に従事
八・一	移駐の為稔山墟出発
八・二	坪山墟着
八・一三	「に至る間坪山地区の治安警備に任じ築城警備業務に従事」
八・一四	停戦詔書発布
八・二四	「に至る間同地区治安警備に任ず」
九・三	坪山墟出発
九・六	廣東省東莞県常平墟木倫着
九・七	「に至る間停戦協定後の業務に従事」
一〇・八	部隊集結の為木倫出発
一〇・一〇	廣東省東莞縣東莞着
一一・一二	「に至る間兵中営に於て復員業務に従事」

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二、四、二	東莞出発
四、二	東莞縣虎門着
四、一二	内地帰還の為虎門港出帆
四、一九	浦賀港着
五、一八	浦賀上陸
	復員完結
	復員完結時に於ける兵力区分
	入院　九名
	死亡　三名
	生死不明　処刑、残留（現地）無シ
	残留整理者官氏名
	陸軍少将　谷　肇
	陸軍書長　荒川秀雄

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百二十九師団独立歩兵第九十八大隊略歴

年月日	概要
昭一五、一一、一三	大隊の前身は海南島派遣才二大隊にして海南島文昌に在りて該地附近の警備に任じありしが
昭一五、一一、一八	汕頭に転進し湖安縣石鼓に駐劄し該地附近の警備に任ず。
二〇、五、一四	軍令陸甲才 号に依り編成下令 独立混成才十九旅団独立歩兵才九十八大隊編成完結す
五、二〇	軍令陸甲才六五号に依り臨時編成下令 才百二十九師団歩兵才九十一旅団独立歩兵才九十八大隊編成完結し現在に至る。
昭一七、五、二八	潮汕地区の警備 昭和十五年三月海南島より汕頭に転進以来潮洲――汕頭に亘る間の警備に任じありたり。
昭一七、六、七	黄岡城作戦 大隊は遠藤兵団丙支隊として作戦参加す。
昭一七、五、二〇	輸送業務 軍命令に依り軍直轄部隊となり作戦参加の為汕頭――廣東――三水に転進す。
昭一七、六、一四	從源作戦に於ける北江作戦 大隊は三水縣蘆苞地区に蟠踞する敵を壊退して

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概
	該地附近の剿正治安に任ず
昭一七・八・三一	輸送業務　原警備地区（汕頭）に帰還す
昭一七・九・一〇	潮山地区の警備
昭一七・一〇・一五	輸送業務　大隊は廣東省新會縣江門附近の警備を命ぜられ転進す
昭一八・三・二〇	江新地区の警備　独立混成才二十二旅団長の指揮に入り江門――新會地区の警備に任す
昭一八・三・三六	廣東附近の警備　廣東省番禺縣黄埔に転進し警備に任す
昭一八・四・二〇五	才一次派西作戦　才百四師団歩兵才百三十七聯隊長の指揮に入り作戦作加増成附近の敵を攻撃す。
昭一八・一一・一四六	中山地区の警備　廣東省中山縣石岐に転進し独立混成才二十三旅団長の指揮に入り該地附近の警備に任す。
昭一九・一一・一五	廣東附近の警備　大隊は更に黄埔に転進し該地附近の警備に任すると共に教育訓練に邁進す
昭一九・四・三	市橋附近の警備
昭一九・六・一四	湘桂才一期作戦　大隊は南支軍主力北江渡河に先ち三水縣蘆苞北方北江渡河を敢行し該地附近の敵を盛く清遠西北方に壊滅し北方江両岸地区に警備に任ず。
昭一九・九・一九	湘桂才二期作戦　大隊は三水――梧州――正南南西江掃海部隊の直接援護

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	
	に任じ更に平南より貴縣に前進す
昭二〇・二・一〇	湘桂才三期作戦　大隊は貴縣より德慶に反転す。
昭二〇・三・三一	德慶附近の警備　德慶附近の警備に任ずると共に附近に蠢動する敵を討伐掃蕩す。
昭二〇・三・三一	輸送業務　大隊は白耶土湾附近に進出の命を受け、三月三十一日德慶出発
四・二	四月三日に廣東到着　同月五日平湖着、同月十九日惠陽縣吉水圍に到着す
昭二〇・四・二〇	白耶土湾附近の警備　白耶土湾（平海半島）附近の警備に任すると共に、陣地構築を実施す
昭二〇・七・三一	輸送業務　惠陽縣龍岡に転進の命を受け、七月三十一日吉水圍出発、八月四日龍岡到着す。
昭二〇・八・一五	龍岡附近の警備　龍岡附近を警備しありしに軍直轄部隊となり廣東に転進準備中、ポツダム宣言受諾詔書談発せらる
昭二〇・八・一八	石龍附近の警備及東莞集中営　師團先遣隊として東莞縣石龍に転進し、該地附近の警備に任しありしが新編才一軍才三十師才八十八団に其の警備を移譲し九月六日東莞縣東莞に前進し翌七日武装を解除せられ日軍集中営に入り待機す。
昭二一・四・二	輸送業務　四月二日乗船の為東莞出発、四月四日虎門に到着待機し四月十三日丫の七九号船に乗船同月二十一日浦賀湾入港、同月三日上陸す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	復員完結時に於ける兵力区分 復員せる総人員　七九九名 入院患者　二〇名 死亡者　二二名 生死不明者(戦亡)　一名 処刑者　無し 現地残留　無し 残務整理者官氏名 陸軍少佐　三野春彦 陸軍中尉　服部武士 陸軍曹長　武下貴

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第二百七十八大隊略歴

陸軍少佐　鶴見和典

年月日	概要
昭二〇、五、一四	軍令陸甲才六十五号陸亜機密才　号同波東参編才三十四号に依り南支廣東省恵陽縣稔山墟に於て才百二十五師団独立歩兵才二百七十八大隊編成下令
五、二〇	編成完結
昭二〇、七、二六	自耶土湾地区の警備並陣地構築
七、二七	大鵬湾地区の警備並陣地構築
九、一九	東莞縣横瀝に在りて警備勤務
二〇、一、九	東莞縣東莞に在りて諸勤務
四、一〇	内地帰還のため東莞縣虎門集結
四、一九	内地帰還のため虎門出帆
四、二二	浦賀入港
四、二三	浦賀上陸
五、一八	召集解除（除隊）（残務整理者に名除く）

復員完結時に於ける兵力区分

総員　一、〇〇五名（編成時）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	摘要
	残務整理者官氏名 部隊長　陸軍少佐　鵜見和典 書記　陸軍曹長　本多平一	
昭二〇、一、七	部隊は歩兵才二十九聯隊補充隊に於て仮編波留独立混成旅団独立歩兵才三大隊編成下令	内訳 入院　九三名 転属　十三名 死亡　七二名 生死不明九名 現地除隊十八名 召集解除（除隊）八〇〇名 計一〇〇五名 （残務整理者に含む）
一、一〇	編成完結	
一、一二	陸亜機密才十三号に依り南支才二十三軍司令部に転属のため会津若松出発	
一、一五	下ノ関港出帆、同日釜山上陸	
一、一八	鮮満国境鴨緑江通過	
一、一九	満支国境山海関通過	
一、二四	中支呉淞到着	
二、一七	呉淞出帆	
二、二四	南支廣東省汕頭上陸、尓後白耶土湾地区の警備を命ぜられ	
三、八	汕頭出発	
三、二七	同省惠陽縣稔山墟着、同日より白耶土湾地区の警備並陣地構築	
五、二〇	軍令陸甲才六十五号に依る才百二十九炉団独立歩兵才二百七十八大隊編成せらる。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第二七九大隊略歴

陸軍少佐　高井芳衛

年月日	概要
昭二〇、一、六	陸亜機密第十三号に依り仮編成波留独立歩兵第二大隊編成下令
一、一〇	編成完結
五、一四	昭和二十年軍令陸甲六十五号に依る第百二十九師団臨時編成下令
五、二〇	第百二十九師団独立歩兵第二七九大隊臨時編成完結
昭二〇、一、一〇	仮編波留独立歩兵第二大隊仮成完結
一、一三	南支派遣の為新発田出発
一、一六	博多港出帆、同日釜山港上陸
一、一九	鮮満国境（安東）通過
一、二〇	満支国境（山海関）通過
一、二五	上海到着、同日より同地附近の警備
二、一三	一部先発
二、一七	主力上海出発
二、二四	汕頭上陸
三、三〇	蘇苗浦到着、同日より同地附近の警備並にバイアス地区築城作業に着手

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	摘要
昭二〇、五、二〇	軍令陸甲第六十五号に依る独立歩兵第二七九大隊臨時編成完結	
七、二九	防衛の為恵陽縣龍尚附近に転進開始	復員者
八、一	集結完了、同日より同地附近の警備並に築城作業に着手	七九五名
八、一四	停戦詔書換発	入院患者
八、一八	復員下令	一七名
九、二	停戦協定締結、兵団転進援護の為淡水―平湖の警備	死亡者
一〇、七	兵団集結地（東莞）転進開始	四十名
二、七	東莞縣東莞に集結完了	残留（現地）
昭二一、四、二	内地帰還の為虎門集結	一名
四、一二	虎門出帆	浦賀国立病院
四、一八	浦賀港入港	入院三五名
六、四	浦賀上陸	
六、一七	復員完結	

残務整理者官氏名

部隊長　陸軍少佐　高井芳衛

陸軍少尉　藤米三

陸軍曹長　今井一男

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第二百八十大隊略歴

陸軍大尉　大神　茂

年月日	概要
昭二〇、五、一四	軍令陸甲第六十五号に依り第百二十九師団独立歩兵第二百八十大隊編成下令
五、二〇	南支廣東省惠陽縣下涌圩に於て独立歩兵第二百八十大隊編成完結
昭二〇、五、二〇	編成完結
	同日より白耶土港地区の警備
六、一	廣東省惠陽淩坑村蕉樹下に移駐、白耶土港地区の警備並陣地構築作業に従事
八、四	同省同縣沙背勒に移駐、大鵬湾地区の警備
九、五	同省東莞縣常平墟に移駐
一〇、二	同縣東莞に集結
	軍需品兵器弾薬移譲完了
昭二一、四、二	同日より復員業務に従事
四、一二	内地帰還のため廣東省東莞縣虎門に移動
四、一九	虎門港出帆
五、一八	浦賀入港
	浦賀上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二、六、八	復員完結 入院　四一名 死亡　六五名 残留者（中国側に於ける取調のため部隊長）一名（於廣東） 残務整理者官氏名 副官　陸軍大尉　宗像虎雄 書記　陸軍曹長　橋木輝雄

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百二十九師団歩兵第九十二旅団司令部略歴

陸軍少将　平野儀一

年月日	概要
	旅団は昭和二十年軍令陸甲第六十五号に拠る第百二十九師団臨時編成要領に基き同年陸亜機密第十三号に依り内地より到着せる仮編波留部隊及独歩第一〇一大隊を基幹として編成し司令部独歩第一〇一大隊同第五八八大隊同第五八九大隊同第五九〇大隊よりなり
昭二〇、五、二〇	編成完結第百二十九師団長の隷下に入る。
昭二〇、五、二〇	旅団編成以来谷支隊の任務を継承しバイヤス湾大鵬湾沿岸地区の陣地を強化し　概ね各種火砲火器の掩体を構成し指揮組織の編成、交通壕を構築中なり弾薬は各種火砲一門につき一〇〇～五〇〇発、重機一銃につき約四〇〇〇発軽機約二〇〇〇発、小銃約一五〇発其の他肉攻資材及糧秣並水は約一ヶ月分を陣地附近に集積するの準備をなし主として対上陸戦斗を訓練中なり。
八、一五	廣東省惠陽縣淡頭附近に於て停戦命令を受領し停戦を知る。
一〇、八六	に亘り平湖樟木頭淡水に於て兵器装具の大部の接収を完了す。
一〇、九	廣東省東莞縣東莞集結のため司令部独歩第五八九大隊同第五九〇大隊は平湖附近を独歩第五八八大隊は淡水を独歩第一〇一大隊は清溪圩を出発し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	摘要
昭二〇、一〇、一六～一〇	に至る間東莞縣附近に集結完了、午後復員準備をなすと共に中国側の労役作業に服す。	
三、三〇	内地帰還のため東莞出発	入院　二四名
三、三一	東莞縣金州に（虎門南方約三粁）到着	死亡　八名
四、九	乗船、同日虎門港出帆	生死不明　ナシ
四、一七	神奈川県浦賀港入港、船内にてコレラ患者発生のため船諸共隔離	処刑
五、二〇	上陸	残留（現地へ）一名、陸軍少佐平野儀一（昭二一、三、三〇戦犯容疑者として廣東に抑留）
五、二〇	復員	

戦務整理者官氏名

陸軍少佐　伊藤宗平

陸軍伍長　田村三郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp